

*Crown English Communication II*, p. 105.

## Lesson 7

### Why Biomimicry?

Science and technology have given us a comfortable life. But sometimes our technology (1)damages the natural world. Janine Benyus, a science writer, suggests a way to make our technology conform to nature: “biomimicry.”

—1

No other living thing on earth has accomplished more than human beings. We have created many useful things such as airplanes, trains, computers, cell phones, medicines and pesticides, as well as (2)institutions such as schools, universities, hospitals and banks. Without them, the modern world would not exist.

These things let us travel (3)far and wide, gather information quickly, educate ourselves, and treat diseases. However, things we have created can be harmful. Pesticides kill insects but can poison the soil. We need cars, but CO<sub>2</sub> may be one of the main causes of global warming.

Now the question we must ask is: If we were to live in harmony with nature, could we maintain our comfortable way of living? In other (4)words, how is it possible for us to live a (5)sustainable life?

Lesson 7– Lead

(1) damage ㊦㊧ 1, p. 472.

— 動 (～s /-ɪz/; ～d /-d/; -aging)

— ㊦ 1 〈物・事が〉〈物・身体の一部など〉に損害[損傷]を与える; 〈健康〉を損なう (㊦ 目的語が人の時には hurt, injure を用いる; →break 類義) ▶a village **badly** [seriously] **damaged** by the storm 嵐により甚大な被害を受けた村/ Smoking may **damage** your health. 喫煙はあなたの健康を損なう恐れがあります。 2 〈名誉・信用など〉を傷つける ▶ His career was permanently **damaged**. 彼は経歴に消すことのできない傷を負った。 — ㊧ 〈物などが〉傷つく, 傷む。

- 山形かっこ 〈 〉 で示されている, 主語や目的語となる名詞の特徴(選択制限)に注目させる。教科書本文では主語が our technology (私たちの技術), 目的語が the natural world (自然界)であることから, 主語には 〈物・事〉が, 目的語には 〈物・身体の一部など〉を表す名詞が使われると記した語義 1 に導く。
- 「㊦ 目的語が人の時には hurt, injure を用いる; →break 類義」という注記を参照させ, 人に損傷・ダメージを与える場合には使わないことを確認させる。また, →で参照指示が示されている break 類義 (p. 236) をチェックさせ, 「…を壊す」という意味を表す他の動詞との違いを確認させる。

**類義** break と damage, destroy, smash  
break は力を加えて, 物を2つ以上の断片にすることを表す最も一般的な語。damage は物に物理的な力を与えて, その価値をおとしめたり, 健康・器官組織・環境などに悪影響を与えることをいう。destroy は都市・建造物・森林などを完全に破壊して存在・機能できなくすることをいう。smash は物などを大きな力で, 乱暴に[音を立てて]壊すことをいう。

Lesson 7– Section 1

(2) institution ㊦ 1, p. 1008.

**in·sti·tu·tion**\* /ɪnstɪtjuːʃ(ə)n/ [→institute]

— ㊦ (㊦ ～s /-z/) 1 ㊦ (公共機関・大学などの大規模な施設; 組織, 機構; [[しばしば I で名称の一部として]] 学会, 協会, 団体) ▶ financial institutions 金融諸機関/the Smithsonian Institution スミソニアン協会。

- 教科書本文では institutions と複数形になっているので, ㊦ のロゴが付いた語義を調べさせる。名詞は常に可算なのか不可算なのかを意識して調べる習慣をつけさせたい。
- 後続する such as ... (…など) で列挙された schools, universities などの具体例が訳語の前に ( ) で示された(公共機関・大学などの大規模な) という意味の補足説明と合うことから語義 1 に導く。
- 辞書の第 1 用例が financial institutions (金融諸機関)であり, 教科書本文でも such as で導入された具体例に banks が使われていることを確かめさせる。

(3) far ㊦ ㊦ ㊦ far and wide, p. 690.

**fār and wide** [[《ややまれ》 **near**] = **near and fār** (《書》遠くまで, 至る所(を[に]))(《捜す・旅行する・広がるなど》(everywhere); ほうぼう《から》《from》) ▶ They came **from near and far** to hear his performance. 彼の演奏を聴きにほうぼうから聴衆が集まった。

- 副詞の far の成句にある far and wide を参照させる。[ ] で囲って示した言い換えに注目させて, far and near という組み合わせも(ややまれ)にみられることや, far and wide の別の形として near and far という組み合わせもあることがイコール(=)に続けて記されていることを確認させる。
- 成句義の前にある《書》という使用域表示から, 書き言葉でよく使われる表現であることを確かめさせる。
- 山形かっこ 〈 〉 で示した, よく一緒に用いられる表現(選択制限)の中に, 教科書本文と同じ「旅行する(travel)」が含まれていることを確かめさせ, travel far and wide というコロケーションを意識させる。

(4) word 図成句 **in other words**, pp. 2184–85.

**in other words** \* [[言い換え]] (前言をわかりやすい表現で明確化して)別の言い方をすれば, 言い換えれば (1) 通例文頭, 文中・文末も可. (2) 言い換えを表す or と共に用いられることもある: [[推論結果]] (相手の発言内容から推測して)つまり(…ということだ), 要するに (1) 通例文頭・文末で, (2) 推論結果を相手に確認するためしばしば疑問文で用いられる (→really 会話のシグナル) ▶It's time for you to go **in other words**, we want you to leave. もうお帰りの時間ですよ. 言い換えれば, 出て行ってもらいたいです/So he is enthusiastic, reckless **in other words**. ということは彼は熱狂的, つまりは向う見ずということだ/"Sure I want to do it, but how much do I get paid?" "In other words, you're just doing it for the money?" 「もちろん, そうしたいよ. でもいくらもらえるんだい」「つまり, 金のためにやるってことだな」.

**類義** **in other words** と **in short, that is (to say)**  
 (1) 言い換えの場合 **in short** に置き換え可能であるが, 言い換え表現が長い場合には用いない.  
 (2) **that is (to say)** も言い換えを表し, 前言の例を次々と挙げるのにも用いられるが, この場合 **in other words** は用いない.

- [[言い換え]]という意味機能表示や, 成句義の前にある( )で示した意味の補足説明から, 教科書のこの部分では, 直前の文(If we were to live in harmony with nature, could we maintain our comfortable way of living?)をわかりやすく言い換えた文(how is it possible for us to live a sustainable life?)が続いていることを理解させる。
- よく似た表現との違いが記された**類義**コラムをチェックさせ, **in other words** で言い換え可能な場合と不可能な場合を確かめさせる。
- 「言い換え表現」に関する説明として, 辞書の次ページには**読解のポイント**というコラムがあるので, 受験問題の長文読解問題対策としてチェックさせるとよい。

**読解のポイント** 言い換えの表現

(1) 言い換えの表現の前後では, 同じ内容が異なる表現で述べられる. 前後は同じ内容のため, 一方の内容が他方のヒントになる. THAT is (1), or 3, in SHORT, in BRIEF, in a WORD などの表現や, コロン(:), セミコロン(;), ダッシュ(—)といった記号も同様の機能を持つ ▶Great artists and great scientists are similar: they both use the two sides of their brains. 偉大な芸術家と偉大な科学者は似ている. すなわち, 両者とも脳の左右両側を使う (1) 前半部分の内容をコロン(:) 以下で具体的に言い換えている)/Different states have different constitutions or, **in other words**, different sets of rules for organizing their governments. 異なる国家は異なる政体を, 言い換えれば, 政府を組織するための異なる規則を持つ (2) or, in other words 以下で different constitutions を言い換えている).  
 (2) 言い換えの表現を使わずに言い換えを行うこともある. この場合, 後続の内容の方が具体的であることが多い ▶We were concerned about the future. How should we earn a living? 私たちは将来のことが心配だった. (たとえば,) どうやって生計を立てていくのか (1) 心配である事柄の具体的内容が直後の文で述べられている).

(5) sustainable 図 1, p. 1903.

**sus-tain-a-ble** 図 1 (環境破壊をせず)持続可能な ▶(environmentally) sustainable development 環境維持開発, 持続可能な発展/sustainable agriculture 持続的農業. 2 維持[継続]できる ▶sustainable growth in the economy 経済の継続的成長.  
**sus-tain-a-bil-i-ty** 図 1 持続可能性, サステナビリティ.

- sustainable は環境問題を語るキーワードとしてしっかり覚えさせたい。教科書のこの章のテーマがバイオミクリー(私たちの技術を自然に調和させる方法)であること, (環境破壊をせず)という語義補足があることから語義 1 に導き, 教科書本文が「どのようにすれば私たちは持続可能な生活を送ることができるのか」と述べていることを確かめさせる。
- 同じく, 環境問題のキーワードとして知っておきたい名詞である sustainability が, 冊子辞書なら直後の見出し語になっているので確認させる。派生語の確認には, 電子辞書よりも冊子辞書の方が視認性が高いことを教えたい。
- 動詞の sustain も sustainable の直前の見出し語になっており, 教科書次ページ 8 行目に使われているので, 語義 1 をあらかじめ確かめさせておく。さらに, 教科書本文の 19 行目で使われている maintain との違いも意識させることができる。どちらも「保つ」ことを意味するが, 語義 1 の(2)状態を一定期間保つこと; maintain はレベルを落とさず保つことが主眼)という注記から, 教科書本文では「私たちは快適な生活様式を(レベルを下げずに)維持できるか」と述べていることを理解させる。

**sus-tain** /səstéin/

[sus (下から) tain (保持する)]

— 動 (～s /-z/; ~ed /-d/; ~ing)

— 1 (活動・状態などを)持続させる, 維持[保持]する (keep up) (1) 状態を一定期間保つこと; maintain はレベルを落とさず保つことが主眼) ▶sustain economic growth [development] 経済成長[発展]を維持する/sustain public interest 大衆の興味を引き続ける.

*Crown English Communication II*, p. 106.

—2

Janine Benyus <sup>(1)</sup>suggests that the answer to this question may be found by looking to nature for inspiration. The word “biomimicry” comes from *bio*, meaning “life,” and *mimesis*, meaning “imitation.” She says that by imitating nature, we should be able to find a way to live in a nature<sup>(2)</sup>-friendly way. After <sup>(3)</sup>all, nature has been able to sustain a life-supporting environment for 3.8 billion years. But now that environment is threatened. We humans must learn how to sustain our environment, by observing and trying to find inspiration from nature. Nature in Benyus’s mind is our teacher and our model.

Lesson 7 – Section 2

(1) suggest 動他 3, p. 1887.

**sug-gest** /səgdʒést/ [語源は「下から(sub) 持ち出す」] ((名) suggestion)  
 動 (～s /-ts/; ～ed /-id/; ～ing)  
 ① 1 (人が) A (考え・計画など) を提案する。持ちかける (1 propose より《くだけて》響き、意味が弱い); [suggest doing] …することを[…してはどうかと]提案する; [suggest (to A) (that) 節] (人が) (A (人)に)…してはどうかと提案[提言]する。言い出す (1 that 節内の should の省略については ↓ 語法); →should 動 7 語法); [suggest wh 節・句] …かについて解決策[妙案]を述べる; (書) [直接語法] …と提案する。考えを述べる。言う (→say 動 1 a 語法) ▶suggest

3 (証拠・研究などが) (事・物) を暗示[示唆]する; [suggest (that) 節] …ということを暗示する (→show 類義) ▶The survey results (strongly) suggest that the economy is improving. 調査結果は景気が回復しつつあることを(強く) 示している/Their shabby clothes suggested poverty. 彼らのみすぼらしい身なりに貧しさが表れていた/The folk tale suggested a good idea. その民話からいい着想が浮かんだ。

- 教科書本文では suggest に続いて that 節が来ているのを確かめさせ、文型表示で [suggest (to A) (that)節] としている語義 1 と、[suggest (that)節] としている語義 3 に注目させる。
- that 節の内容が「この質問に対する答えは自然にひらめきを頼ることで見つけられるかもしれない」となることを確認させる。語義 1 は「…してはどうかと提案する」という意味であり、教科書のこの部分の that 節の内容では提案にはならないため、語義 3 の「…を暗示[示唆]する」に導く。
- suggest の導く that 節としては語義 1 もよく使われるので確認させたい。特に語法 コラム(1)には、この意味で使われる場合の that 節内の動詞の形について説明されているので、大学入試でも問われる文法事項としてチェックさせる。また(2)には、語義 3 の意味になる場合は、(1)で示されたような動詞の形には必ずしもならないという注記があるので確かめさせる。

**語法**▶ that 節内の 動 の形と should の有無  
 (1) suggest に続く that 節内の 動 の形は、(a) 原形(仮定法現在形)、(b) (主に英) should + 原形、(c) (英・ややくだけて・比較的まれ) 直説法 (→it 4 a 文法)、のいずれかとなる。この形をとる語は 提案・必要性・命令などの意を表すものが多い。主なものは →should 動 7 語法。  
 (2) suggest に続く that 節は必ずこの形になるとは限らない。suggest が「示唆[暗示]する」の意の場合はこの形をとらないので、意味に注意して区別する (↓ 動 3)。

(2) -friendly 複合要素, pp. 768–69.

**-friend-ly** /frén(d)li/ 複合要素 [名 動] に付いて 形 を作る] …にとって使いやすい、わかりやすい; …に害を与えない、優しい ▶user-friendly (利用者が)使いやすい/environmentally-[eco-]friendly 環境に優しい/family-friendly policies 家族優先の政策 (1 ハイフンを省略し2語につづることもある; 2-1a) 短い語はハイフンを付け、長い語は省略する傾向がある。

- 教科書本文ではハイフン(-)を使って nature に続いていることから、動ではなく 複合要素 の方を参照させる。
- [名 動] に付いて 形 を作る] という用法指示に注意させる。教科書本文では nature という名詞に付いていることを確かめさせ、全体として「自然に優しい」という意味になり、後続する way という名詞を修飾する形容詞の働きをしていること理解させる。
- 辞書の第3用例が同じように名詞について形容詞を作り、後続する名詞を修飾する用法の例になっているのでチェックさせる。例文訳に続いて、2 を付して示された注記には、ハイフンを省略して2語に綴る場合もあること、長い語の場合はハイフンを省略する傾向があることが記されているので確認させる。教科書 108 ページ 15 行目には辞書の第2用例 (environmentally-friendly)のハイフンを省略して2語で綴った例が出てくるので先にチェックさせておくとよい。後半には 2-1a というロゴがあるが、『ウィズダム英和辞典』はコーパスを用いて編纂されており、実際に使われている英語の実態を解説している部分にこのロゴが用いられているので、その点も触れておくとよい。

(3) all 代成句 after all, pp. 55-56.

after all • (1) (1)では《まれ》に、(2)と(3)では通例、《話》では小休止で、《書》ではコマで区切られる

**会話のシグナル** after all は《つなぎ表現》として主に次の2つの用法で用いられる。1つは期待や予想に反したことが起こったことを示す「結局(は)」の意で、通例文尾、時に文中で用いられ、after に強勢が置かれる。もう1つは、「だって…だから」の意で前文の内容に関して聞き手がすでに知っていると思われる情報を理由として提示し、通例文頭、あるいは文尾で用いられ、all に強勢が置かれる。この用法においては、理由を相手に確認するために付加疑問文で用いられることがある (→ really 会話のシグナル)。

(1) /ˌɑːl/ 【結果】(期待・予想などに反して)結局(は): [[そうではないかと思っていたけれど] やっぱ (1) 通例文尾、時に文中で] ▶ The train left ten minutes late **but** arrived on time **after all**. 列車は10分遅れて出発したが結局時間通りに到着した/His performance wasn't so bad **after all**. 結局、彼の演技はそんなに悪くなかった。

**語法** after all は結果が正反対になったり、二転三転した後で用い、「最終的には (finally, in the end)」、「長い目で見れば (in the long run)」などの意では用いない ▶ John went on trying. **Finally**, [×After all] he passed his driving test. ジョンは挑戦し続けて、結局、運転免許試験に合格した。

(2) /ˌɑːl/ 【理由】(意見を述べた後で聞き手にとって既知の理由を確認して)だって[何しろ]…だから (1) 通例文頭、しばしば文尾、時に文中で。(2) because や for と異なり理由として述べられる情報を話し手と聞き手が共有している) ▶ Let's take a walk together. **After all**, it's a lovely day and we've finished our homework. 一緒に散歩でもしようよ、だって、天気はいいし宿題も終わったもの/Of course, he apologized! It was his fault, **after all**. もちろん彼は謝ったよ。何しろ悪いのは彼のだから (1) 聞き手が未知の内容を既知であるかのように伝えて共感・同意を得ようとする必要がある)/Mom's baking a cake. **After all**, it's my birthday. ママがケーキを焼いているんだ。だって僕の誕生日だからね (1) 聞き手が忘れていた可能性がある内容を思い出させる)。 (3) /ˌɑːl, ˌɑːl/ 【結果】(いろいろなことを考慮すれば)結局(は)、所詮 (1) 通例文尾・文頭、時に文中で) ▶ And what is show business, **after all**? とどのつまり芸能界とは何なのか/This is, **after all**, what she's been waiting for all her life. これは結局彼女が生涯待ち望んできたことだ。

- 成句義は3つあり、(1)、(3)には【結果】、(2)には【理由】という意味機能表示があることを確認させる。
- どの成句義が当てはまるのかを判断するため、教科書の文脈を確かめさせる。after all の直前では「自然を模倣することにより、私たちは自然に優しい方法で暮らす方法を見つけることができるはずだと彼女は言う」と述べていること、after all に続く文では「自然は38億年間、生命を維持する環境を持続させることができた」と述べているのを確認させる。自然が生命維持環境を長期にわたり持続させてきたのは、直前の文の彼女の発言の結果ではなく、理由と考えた方が自然であることを理解させ、成句義(2)に導く。
- 成句義に続いて(1)で示された注記のうち、(2)の「理由として述べられる情報を話し手と聞き手が共有している」という説明に注意させる。自然が生命維持環境を持続させてきたことは事実であり、教科書のこの部分では、その共有された情報を「なにしろ[だって]自然は38億年間、生命を維持する環境を持続させることができたのだから」と理由として示していることを確認させる。
- 互いに共有する情報を理由として述べるafter all のわかりやすい例として、辞書の第1用例を参照させる。

*Crown English Communication II*, p. 89.

Benyus reminds us that once we try to learn *from* nature, rather than *about* <sup>(1)</sup>her, we may feel a sense of wonder. In fact, there are all sorts of plants and animals doing things we can only <sup>(2)</sup>dream about. How about dragonflies, which move more quickly than our best helicopters? How about hummingbirds, which can fly hundreds of kilometers on less than three grams of fuel? How about ants, which can carry many times their body weight? They do these things without damaging nature.

(1) her ㊦ 7, p. 913.

7 《やや古》 ㊦ の前で] それの: ㊦ 目的語として] それを[に] (1 国家・船・愛車などをさして擬人的に用いる; →she 2, 3) ▶ Fill her up, please. 満タンをお願いします (1 自動車にガソリンを入れる際に). 8 《書・まれ》 ㊦ の前で] (その)人の: ㊦ 目的語として] (その)人を[に] (1 someone, everyone などの不定代名詞, および person, student など性別不特定の語をさして用いることがある →someone ㊦ 文法; 通例は his (or her), their もしくは him (or her), them を用いる; →she 1 ㊦ ㊦ (3), he 2 ㊦ ㊦).

- ・ 教科書本文ではパラグラフの最初の文で使われているので, 代名詞で受けている名詞はその文中にある, ということを確認させる。
- ・ 教科書本文では A rather than B (B よりむしろ A)の形を使って learn from nature, rather than about her と述べていることから, her はこの部分では人ではなく nature (自然)を指していることを確認させる。
- ・ her が人間ではないものをさす場合として語義 7 を参照させる。㊦ を使った「国家・船・愛車などをさして擬人的に用いる」という注記をチェックさせ, 教科書のこの部分では自然を擬人化していることを確認させる。

(2) dream ㊦ ㊦ 1, p. 575.

— ㊦ 1 〈人が〉《…を》 夢見る, 夢に描く 《of doing, about (doing)》 ▶ I dreamed of becoming an astronaut when I was young. 私は若いころ宇宙飛行士になることを夢見ていた/That is something I have dreamed about all my life. それは私が一生涯望んできたことだ。  
2 《…について》 (睡眠中に) 夢に見る 《about, of》 ▶ I dreamed about you last night. 昨夜君の夢を見た。

- ・ 教科書本文で dream about と前置詞の about が後続していることから, 自動詞用法を確認させる。共に使われることの多い前置詞(連語)が二重山形かっこ「」で示されているので, about が示されている語義 1 と語義 2 を参照させる。
- ・ 教科書本文では「(睡眠中に)夢に見る」話をしているのではないので, 「夢見る, 夢に描く」を意味する語義 1 になることを確認させる。教科書本文と同じく「名詞+主語+dream about」の形を持つ辞書の第2用例(something I have dreamed about)を参照させ, 教科書のこの部分(things we can only dream about)は「私たちが夢見るしかできないこと」という意味になることを確認させる。



*Crown English Communication II*, p. 108.

—3

Benyus believes that we face environmental problems, not <sup>(1)</sup>because there are no solutions, but because we have not been looking in the right direction. Actually, we can solve many problems, <sup>(2)</sup>especially in the area of design, by looking to nature for inspiration.

Engineers in Japan had a problem: *Shinkansen* trains made a very loud <sup>(3)</sup>sound when going into tunnels. To solve this problem, the engineers turned to the kingfisher, a bird that dives into water without a splash. They found the solution: they designed the nose of the train in the same shape as the kingfisher's beak.

The Eastgate Center in Harare, Zimbabwe, is famous for its environmentally friendly air conditioning system. The architects who designed

Lesson 7— Section 3

(1) because ㊦ 1a, p. 167.

**be-cause** /bɪkəʊz, -kɔːz, -kɑːz|-kɔːz/ (㊦(1)話者によつては /㊦(弱) bɪkəz, bə-, (強) bɪkɔːz|-kɔːz/. (2)《くだけて》'cause, 'cos /kɔːz, kəz/) [by cause「原因によつて」]

㊦ [[従位接続詞]] (㊦節中の㊦指示については →when ㊦ 1 語法 (4) 1 [[理由・原因]] a (主節で示される内容の理由や原因を説明して) …**なので**, **だから** ▶I stayed home all day(▽) because I didn't want to see anyone(▽). 私は誰にも会いたくなかったので一日中家にいた (㊦(1)通例 becauseは強勢を受けないが, Because I didn't want to see anyone(▽), I stayed home all day(▽). の語順では強勢を受けることが多い; ↓類義). (2) 1 b の用法と混同して, ×I stayed home all day. Because I didn't want to see anyone. のように because 節を単独で用いない; ↓2) /I couldn't go to the party(,) because I was in the hospital(▽). 入院していたのでパーティに行けなかった (㊦3と違って文末は下降調となる; 3 の用法と紛らわしい場合は becauseの前にコンマが置かれることがある) /Most people do it not because they have to, but because they like to. ほとんどの人は、そうしなければならないからではなく、そうしたいからするのだ/He said it partly because he really did feel it, and partly because he wanted to please her. 彼がそう言ったのは、ひとつには本当にそう感じたから、またひとつには彼女を喜ばせたかったからだ (㊦この対句表現は《主に書》); partly の代わりに in part を用いるとさらにかたい表現).

- 教科書本文が not because ..., but because ... の形を取っていることを確かめさせる。語義 1a の第 3 用例がこの表現を使った例文になっているのでチェックさせ、教科書のこの部分では「解決策がないからでなく、私たちが正しい方向をみてこなかったから」という意味になることを確かめさせる。太字用例は頻出するチャンクを示しているので、発信活動に使えるように覚えさせたい。

(2) especially ㊦ 1, p. 641.

**es-pe-cial-ly** /ɪspɛʃ(ə)li, es-/ (㊦時に 'specially とつづられ, specially と発音が区別できないことがある) [→special]

㊦ 1 [[特定化]] (通常・他と比べて) **とりわけ**, **特に**, **ことに**, **著しく**, **格別**に、いつもより (㊦通例修飾する語(句)・節の直前に置かれる; ㊦の直前では specially を用いる; →for EXAMPLE ㊦読解のポイント) ▶The view of the lake is beautiful, especially in the evening. 湖の眺めは特に夕方美しい/Stretch twice a day, especially if you work at a computer. 1日に2回体を伸ばしなさい、とりわけコンピュータに向かって仕事をしているならば (㊦㊦-㊦)前置詞句の直前に置かれる例が最も多いが、続いて if 節, when 節, as-because-since 節の直前に置かれる例が多い) /This question is especially important. この問題は特に重要だ/Ellis and I have come here especially [for you [to see you]. エリスと私は特にあなたのために[あなたに会うために]ここにやってきたのですよ/Politicians, especially, are subject to criticism. とりわけ政治家は批判を受けやすい (㊦主語を修飾するときはその直後に置く; ×Especially politicians... としない).

**類義** especially と specially, particularly especially は、総称的表現で一般化した後、典型例を示すのに用いられ、特に ㊦が続く場合に好まれる。また、㊦㊦の前で程度を強める際にも用いられる。specially は主に特定の目的を意識して行われた行為に言及する際に用いられる。また、《くだけて》では時に especially 1 と区別なく用いられることがある。さらに、様態を表すのはこの語のみ。particularly は especially 1 と区別なく用いられることがある。また、㊦㊦の前で程度を強める際にも用い、その場合、否定文でも好まれる。

- 語義 1 の第 1 用例が教科書本文のように「コンマ(,) especially+前置詞句」となっているのを確かめさせる。訳語の前にある ( )で示した意味の補足説明や、第 1 用例の用例訳を参考にさせて、教科書のこの部分では「(他と比べて)特にデザインの分野で(は)」と述べていることを確認させる。
- 訳語に続く (㊦)通例修飾する語(句)・節の直前に置かれる…という注記や、類義にある「㊦が続く場合に好まれる」という説明をチェックさせる。日本語では「特に」という表現が主に文頭に来ることが多いため、作文をさせると文副詞のように使う生徒が多いので注意させる。
- 類義には「特に」という意味を表す他の副詞の解説もあるのでチェックさせるとよい。

(3) sound<sup>1</sup> 図1, p. 1809.

**sound<sup>1</sup>** /saʊnd/ [語源はラテン語で「音 (sonus)」, 16世紀, 語尾に d がついた]

— 図 (㊟ ~s /-dz/) 1 ㊟ 音, 音響; 物音; ㊟ 音波 ▶ **a high [low] sound** 高い[低い]音/We could hear the **sound** of breaking glass. ガラスを割る音が聞こえた/**make a clicking [buzzing] sound** カチカチ[ブンブン]という音を立てる/Not a **sound** was heard. 物音ひとつ聞こえなかった/Don't **make a sound**. The baby is sleeping. 音を立てないで, 赤ん坊が眠っているから.

- 同じ綴りで語源の違う語がある場合, 見出し語の右上に番号を付けて別々に記述されているのをチェックさせ, 教科書本文では冠詞, 副詞, 形容詞が先行する名詞句(a very loud sound)になっていることから sound<sup>2</sup>ではなく sound<sup>1</sup>であることを確かめさせる。
- 教科書本文と同じ make という動詞を使った用例(第 3, 5 用例)のある語義 1 に導く。
- 基本的な名詞として, コロケーションを覚えさせたい。辞書の第 3, 5 用例訳から「音を立てる」という場合は動詞として make を用いることをチェックさせ, 教科書本文が「とても大きな音を出した[立てた]」という意味になることを確認させる。また, どのような音なのかを示す形容詞(教科書の loud, 辞書の第 1 用例の high, low, 第 3 用例の clicking, buzzing)にも注意させると, 関連して覚えられるので語彙力の増強につながる。

*Crown English Communication II*, p. 109.

this building were inspired by termite mounds. Termites keep their living space at a comfortable temperature by opening and closing small holes in their mounds. The architects used a similar system for the Eastgate Center and saved electricity.

Sharks are one of the oldest living things on earth. They are perfectly <sup>(1)</sup>suited to their environment. For example, the pattern of their skin <sup>(2)</sup>protects them against bacteria. Scientists have found out how to use this same pattern on walls to protect against bacteria in places like schools and hospitals.

(1) suited ㊦ 1, p. 1888.

**suit-ed**† /sú:td/ ㊦ 1 «…に» 適した, ぴったりの «to, for»; 【be ~】 (人・事が) «目的・仕事・状況などに/…するのに» 適している, 最適である «for, to (doing)/to do» (㊦時に best, well, ideally, perfectly などの ㊦を伴う) ▶The course is *well suited to* beginners. そのコースは初心者にうってつけだ/the most *suited* animal *for* living on sand 砂地で生きるのに最も適した動物. 2 (2人が) 気が合っ  
て, よいカップルで.

- 教科書本文が are perfectly suited to ... と be 動詞が先行する叙述用法であり, 直後に to を伴っていることを確かめさせる。【be ~】という用法指示や, 共に使われることの多い前置詞(連語)を示す二重山形かっこ « » に to が示されていることから語義 1 に導く。
- 辞書の第1用例と教科書本文の形とを比べさせて, ここでは「完全に彼らの環境に適している」という意味になることを理解させる。
- ㊦の注記には, 共に使われる副詞についての情報があり, 教科書本文と同じ perfectly もリストされているのでチェックさせる。

(2) protect ㊦㊧ 1b, p. 1513.

**b**【protect A from [against] B】 (人・物・事が) B (被害・病気など) から A (人・物・事) を守る, 保護する, かばう (㊦ against では立ち向かう積極的姿勢を強調) ▶protect children from disease 子供を病気から守る/protect oneself against crime 犯罪から身を守る。

- 教科書本文と同様, against が用いられた 【protect A from [against] B】の文型表示のある語義 1b に導く。語義を確認させ, この部分では「バクテリアから彼らを守る」という意味になることを理解させる。
- 文型表示では[ ]を使った言い換え可能な語として from が示されていることをチェックさせ, against の代わりに from も用いられることに注意させる。辞書の第1用例が from を使った例, 第2用例が against を使った例になっているので参照させる。
- 教科書同ページ 31 行目には自動詞用法 (protect against bacteria) も出ているので, 自動詞の部分も同様に確認させる。

— ㊦㊧ «…に対する» 保護機能がある, «…を» 防ぐ(働きがある) «against, from»; 【保険】 (保険・契約などが) «…に対して» 補償をする «against» ▶Certain foods can help (to) protect against cancer. ある種の食べ物は癌(?)の防止に役立つことがある。

*Crown English Communication II*, p. 110.

—4

Benyus believes that biomimicry may help us become more aware of nature, thus <sup>(1)</sup>leading us to change our way of living. We cannot keep taking advantage of nature forever, nor can we keep <sup>(2)</sup>dumping our waste into our environment.

For too long, we have <sup>(3)</sup>judged our innovations by whether they are good for us, or whether they make money. Benyus suggests that we put what is good for the whole earth first, and trust that it will also be good for us humans. The new questions should be: Will it fit in? Is there a model for this in nature? What will it <sup>(4)</sup>cost the earth and future generations?

Lesson 7 – Section 4

(1) lead<sup>1</sup> ㊦㊧ 6, p. 1090.

**6** [lead A to do] A(人)を…する気にさせる; (誤った考えなどを抱かせて) Aに…させる ▶What led you to write mysteries? どうしてミステリー小説を書こうという気になったのですか/Olivia was led to believe that the pill would help her to lose weight. オリヴィアはその薬が減量に効果があると信じ込まされた。

- 教科書本文では leading us to change ... と目的語に人(us)を取って、その後ろに to 不定詞が続いていることから、[[lead A to do]]の文型表示のある他動詞の語義 6 に導く。
- 語義の部分で、A には人を表す名詞が来るのが山形かっこ〈 〉に囲って示されていることをチェックさせ、教科書本文が「私たちを[に]生活様式を変える気にさせる」という意味になることを確かめさせる。

(2) dump<sup>1</sup> ㊦㊧ 2, p. 587.

**2** (くだけで) «…に» (いらぬ物) を捨てる; (ごみ) を投棄する «in, into» ▶Don't dump your garbage in the river. 川にごみを捨てないで。

- 共に使われる前置詞(連語)を示す二重山形かっこ« »に、教科書本文と同じ into が示されていることから語義 2 をチェックさせる。
- 山形かっこ〈 〉に囲って示されている、一緒に用いられることの多い目的語に関する情報(選択制限)に、「いらぬ物」と記されていることを確認させる。教科書本文の目的語である waste (ごみ, 廃棄物)や、辞書用例の目的語である garbage (ごみ, 生ごみ)などは、dump と一緒によく使われる名詞であることを注意させる。

(3) judge ㊦㊧ 1a, p. 1044.

**1a** (熟考して) «…で» (人・事) を判断する, 評価する «by, on, from»; [[~ A (to be) C/that 節/wh 節] AをCであると[…だと, …かを]判断する, 見極める (㊦㊧Cは㊦㊧); (人など)を批判する ▶Students should not be judged only by academic achievement. 学生は学業のみで判断すべきでない/We judged it wiser to stay home. 我々は家にいる方がよいと判断した/What gives you the right to judge other people? あなたが他人を非難する権利がいったいどこにあるのか。

- 共に使われる前置詞(連語)を示す二重山形かっこ« »に、教科書本文と同じ by が示されていることから語義 1a をチェックさせる。同じ by を使った辞書の第 1 用例を確認させるとよい。

- 「…で」という判断基準を示す前置詞としては、by のほかに on や from も用いられることがカンマ(,)で区切って示されているので注意させる。「判断する」という動詞の意味だけでなく、「…で判断する」という場合、前置詞として何が使われるかを意識させたい。

(4) cost ㊦㊧ 2, p. 433.

**2** [cost (A) B] (物・事が) (A(人など)に) B(犠牲)を払わせる; B(損失)をもたらす; B(時間・労力など)を必要とする (require) (㊦㊧受け身にしない; 具体的な時間を表す場合は take を用いる) ▶It didn't cost me anything. それで私が損することはなかった/Drunken driving can cost you your life. 酒酔い運転で命を失うこともある/The strike is costing the company \$3 million a week. ストによって会社は週に3百万ドルの損失を出している (↑語法)/One little mistake will cost you dearly. たった1つのささいなミスが命取りになる。3(費用)を«…と»見積もる (out) «at» (㊦㊧しはば受け身で)。

- 他動詞には2つの語義(「〈金銭・費用〉がかかる」と「犠牲)を払わせる」)があるが、教科書のこの部分は負担する費用の話ではなく、地球環境と人類に関わる話をしていることから語義 2 に導く。
- [[cost (A) B]]の文型表示から、目的語が1つの第 3 文型 (SVO)と2つの第 4 文型 (SVOO)のどちらも可能であることを注意させる。教科書本文(What will it cost the earth and future generations?)は主語が it, A にあたる名詞が the earth and future generations, B にあたる名詞が疑問詞 what となって文頭に現れた疑問文(すなわち第 4 文型 SVOO)であることを確かめた上で、この部分が「それは地球と未来の世代にどんな損失をもたらすだろうか」という意味になることを理解させる。

*Crown English Communication II*, p. 111.

Biomimicry is a powerful tool that can play an important role in our future. In the early days, there were just a few of us humans in a very large world. Now, our population is growing rapidly, and we are beginning to have a bad <sup>(1)</sup>effect on the environment. We are finally looking for an answer to the question: “How can we live on our home planet without destroying it?” Benyus believes that biomimicry is not only a new way of looking at nature but also a key to our survival on planet <sup>(2)</sup>Earth. We have to learn to live on the earth. It is our home, but it is not ours alone.



(1) effect 図 1a, p. 604.

**ef·fect** /ɪfekt/ [ex (外へ) fect (作り出したもの)]  
 ((形) effective, (副) effectively)  
 図 (㊟) ~s /-ts/ 1a ㊟ «…に対する/…する» 影響, 効果: (薬などの)効用, 効能, ききめ «on, upon/of doing» (㊟ 具体例では an ~/~s; その際しばしば修飾語を伴う) ▶ **adverse effects** 逆効果/**ill effects** 悪影響/The herbal medicine had a beneficial [profound] **effect on** my health. 漢方薬が健康に有益な[絶大な]効果を及ぼした/I'm still **feeling the effects of** jet lag. まだ時差ボケの影響から脱しきれていない/This face cream will **have the effect of making** you look younger. この顔用クリームにはより若く見せる効果があります/We advised him to stay there but to no [little] **effect**. 彼にそこにとどまるよう助言したがまったく[ほとんど]効果がなかった/to good [great, dramatic] **effect** よく[大いに, 劇的に]効いて.

- 共に使われる前置詞(連語)を示す二重山形かっこ« »に, 教科書本文と同じ on が示されていることから語義 1a をチェックさせる。二重山形かっこの中がスラッシュ(/)で区切られており, 前半の「…に対する影響・効果」という表現では on や upon を用い, 後半の「…する影響・効果」という表現では of doing を用いると記されていることを確認させる。
- 語義 1a に続く㊟のロゴを確認させ, 基本的には不可算名詞であるということを確認させる。教科書本文では a bad effect と不定冠詞が付いていることをチェックさせた上で, 今度は訳語に続く(㊟)具体例では an ~/~s; その際しばしば修飾語を伴う」という注記を確認させる。教科書本文や辞書の第 1, 2, 3 用例のように, 修飾語として形容詞を伴い, 具体的な影響についていう場合は可算用法になることを理解させる。特に第 3 用例は教科書本文と同じ前置詞 on が使われ, さらに動詞 have とのコロケーションになっているので注意させる。

(2) Earth 図 1, p. 595.

**earth** /ɜːθ/ (㊟ ear- は /ɜːr/) [原義は 2] ((形) earthy)  
 図 (㊟) ~s /-s/ 1 [(the) ~; しばしば (the) E-] 地球 (globe); (地上の)世界 (world) (㊟(1)earth は「地」, globe は「球」のイメージ. (2)㊟の後では無冠詞で用いることができる) ▶ **The (planet) Earth** goes [revolves] around the Sun. 地球は太陽の周りを公転している/**the earth's atmosphere** [surface] 地球の大気[地表]/The space shuttle came back to **earth**. スペースシャトルが地球に帰還した/all the countries on **earth** 世界中の国々/all over **the earth** 世界中で.

- 教科書本文でここまで何度か出てきた語だが, 用法を確認させたい。語義 1 の[(the) ~; しばしば(the) E-]という用法指示を参照させ, ( )に囲って示されているので定冠詞 the が付く時も付かない時もあることを確認させる。また小文字で始まる earth も大文字で始まる Earth も両方あることをチェックさせ, 教科書のこの部分では Earth と大文字始まりであること, また辞書の第 1 用例が教科書と同じ planet Earth であることに注意させる。
- (㊟)の注記の(2)に「㊟の後では無冠詞で用いることができる」と記されているので参照させる。教科書のこの部分も前置詞 on に続いているので, 冠詞がなくてもよいことを確認させる。今まで earth が教科書本文でどのように使われて来たかをチェックさせるのもよい。たとえば, 110 ページの 10-11 行目や, 同じページの 28 行目は前置詞(それぞれ for と on)に続いているが the が付いていること, これに対し 105 ページ 1 行目や 109 ページ 27 行目は前置詞 on に続いて無冠詞になっていることを確かめるといったタスクをさせるのもよい。